

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	的場 辰朗
主な担当科目	実技個人レッスン[声楽 I ①,声楽 I ②,声楽 I ③,声楽 I ④,音楽芸術表現実技(声楽)②]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	コロナ禍にあたり、学生ひとりひとりが三密を避けて、コロナに自分がかからない、他の人にうつさないをモットーに健康管理に注意する。そしてそれぞれが自分の目標をもち、その目標に向かって無理なく努力すること。学生生活をエンジョイしながら、声楽レッスンだけでなく、学生生活全般にわたって更に自習力のアップを図り、日々充実した学生生活を送るように指導すること。
2022年の教育に関する自己評価	コロナ禍にあたり、学生ひとりひとりが感染対策を十分にとって学生生活を送るように指導できたと思う。学生それぞれが自分の目標に対して声楽レッスンだけでなく学業全般にわたってきめ細かな指導ができたと思う。学生の質問・相談に対しても、学生それぞれにあった指導・教育ができたと思う。その結果、学生がそれぞれのレベルアップにつながり、学生ひとりひとりの学修意欲が増したと思う。
2022年のFD活動に関する自己評価	学部・短大FD委員会副委員長として、また一教員としてFD全体研修会の立案・実施内容他当日のスケジュール等積極的に運営に尽力した。また、声楽学内組織FD研修会に対して、部会主任として司会・進行役を担い全体のスケジュールから実施内容等積極的に運営に尽力し、実際の学生に対する指導に役立てた。
授業改善のために取り入れた研修内容	多様な問題をかかえる学生に対する指導についてFD研修会を通じて、学生ひとりひとりの状況にあわせた指導法を研究し、実践することができた。また、学修さぼ一とを通じて学生の相談・指導に大変役立てることができた。

科目名－クラス名

## 声楽Ⅰ①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。1年次は30分の個人レッスンを週2回（計60分）行う。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- ①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- ②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- ③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

## 授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とプレス
第18回	発声練習と身体の使い方（開口母音）
第19回	発声練習と身体の使い方（閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読だけではなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

## 声楽Ⅰ①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	1～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。1年次は30分の個人レッスンを週2回（計60分）行う。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- ①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- ②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- ③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

## 授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とプレス
第18回	発声練習と身体の使い方（開口母音）
第19回	発声練習と身体の使い方（閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

## 声楽Ⅰ①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。1年次は30分の個人レッスンを週2回（計60分）行う。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- ①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- ②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- ③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

## 授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とプレス
第18回	発声練習と身体の使い方（開口母音）
第19回	発声練習と身体の使い方（閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読だけではなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

**声楽Ⅰ①**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。1年次は30分の個人レッスンを週2回（計60分）行う。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- ②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- ③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

- 第1回 歌う姿勢
- 第2回 呼吸法
- 第3回 身体の使い方
- 第4回 発声練習（開口母音）
- 第5回 発声練習（閉口母音）
- 第6回 正確な音程
- 第7回 正確なリズム
- 第8回 イタリア語の正しい発音(母音)
- 第9回 イタリア語の正しい発音(子音)
- 第10回 歌詞の理解
- 第11回 歌詞の表現
- 第12回 フレーズと音楽づくり
- 第13回 前期試験曲の伴奏合わせ
- 第14回 前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
- 第15回 前期試験に向けての総合練習
- 第16回 歌う姿勢と重心
- 第17回 呼吸法とプレス
- 第18回 発声練習と身体の使い方（開口母音）
- 第19回 発声練習と身体の使い方（閉口母音）
- 第20回 正確な音程と歌い方
- 第21回 正確なリズムと歌い方
- 第22回 イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
- 第23回 イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
- 第24回 歌詞の理解力の向上
- 第25回 歌詞の表現力の向上
- 第26回 古典歌曲の様式感
- 第27回 古典歌曲の音楽表現
- 第28回 後期試験曲の伴奏合わせ
- 第29回 後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
- 第30回 後期試験に向けての総合練習



### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

**声楽Ⅰ①**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。1年次は30分の個人レッスンを週2回（計60分）行う。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- ②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- ③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

- 第1回 歌う姿勢
- 第2回 呼吸法
- 第3回 身体の使い方
- 第4回 発声練習（開口母音）
- 第5回 発声練習（閉口母音）
- 第6回 正確な音程
- 第7回 正確なリズム
- 第8回 イタリア語の正しい発音(母音)
- 第9回 イタリア語の正しい発音(子音)
- 第10回 歌詞の理解
- 第11回 歌詞の表現
- 第12回 フレーズと音楽づくり
- 第13回 前期試験曲の伴奏合わせ
- 第14回 前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
- 第15回 前期試験に向けての総合練習
- 第16回 歌う姿勢と重心
- 第17回 呼吸法とプレス
- 第18回 発声練習と身体の使い方（開口母音）
- 第19回 発声練習と身体の使い方（閉口母音）
- 第20回 正確な音程と歌い方
- 第21回 正確なリズムと歌い方
- 第22回 イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
- 第23回 イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
- 第24回 歌詞の理解力の向上
- 第25回 歌詞の表現力の向上
- 第26回 古典歌曲の様式感
- 第27回 古典歌曲の音楽表現
- 第28回 後期試験曲の伴奏合わせ
- 第29回 後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
- 第30回 後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

## 声楽Ⅰ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア古典歌曲に加え、イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiの歌曲まで時代を広げて勉強する。実技試験課題は、前期「イタリア古典歌曲又はRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」後期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- イタリア古典歌曲(1792年のRossini生誕以前の作曲家による作品)のレパートリーを作り、演奏法と様式感を理解することができる。
- イタリアベルカントの代表的な作曲家(Rossini,Donizetti,Bellini)及びVerdiの室内歌曲のレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。

## 授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクッション(音読)
第4回	イタリア語ディクッション(歌唱)
第5回	正確な音程とリズム
第6回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方
第9回	歌詞の理解
第10回	歌詞の表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回	イタリア語ディクッションとポジション(音読)
第19回	イタリア語ディクッションとポジション(歌唱)
第20回	正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第22回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第23回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方の向上
第24回	歌詞の理解力の向上と表現
第25回	歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回	時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回	時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。  
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。  
一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

## 声乐Ⅰ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア・ベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進捗、能力に合わせて学んでいく。実技試験は前期「Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲1曲(4分以内)」 後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- イタリア・ベルカントの代表的な作曲家（Rossini, Donizetti, Bellini）及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
- 日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

## 授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクッション（音読）
第4回	イタリア語（歌唱）
第5回	正確な音程とリズム
第6回	イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の様式感
第7回	イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回	イタリア語（レチタティーヴォを含む）の正しい発音と歌い方
第9回	歌詞の理解
第10回	歌詞の表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回	イタリア語・日本語 ディクッションとボジション（音読）
第19回	イタリア語・日本語 ディクッションとボジション（歌唱）
第20回	正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回	Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
第22回	Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
第23回	イタリア語（レチタティーヴォを含む）・日本語の正しい発音と歌い方の向上
第24回	歌詞の理解力の向上と表現
第25回	歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回	時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回	時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）

**履修上の注意**

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

**教科書・参考書**

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集、日本歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

## 声楽Ⅰ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア古典歌曲に加え、イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiの歌曲まで時代を広げて勉強する。実技試験課題は、前期「イタリア古典歌曲又はRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」後期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」実技試験の点数をもって評価とする。

## 学修成果

- 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- イタリア古典歌曲(1792年のRossini生誕以前の作曲家による作品)のレパートリーを作り、演奏法と様式感を理解することができる。
- イタリアベルカントの代表的な作曲家(Rossini,Donizetti,Bellini)及びVerdiの室内歌曲のレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。

## 授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクッション(音読)
第4回	イタリア語ディクッション(歌唱)
第5回	正確な音程とリズム
第6回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方
第9回	歌詞の理解
第10回	歌詞の表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回	イタリア語ディクッションとポジション(音読)
第19回	イタリア語ディクッションとポジション(歌唱)
第20回	正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第22回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第23回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方の向上
第24回	歌詞の理解力の向上と表現
第25回	歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回	時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回	時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習



### 履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。  
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。  
一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

**声乐 I ②**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア・ベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進捗、能力に合わせて学んでいく。

実技試験は前期「Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲1曲(4分以内)」 後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- ② イタリア・ベルカントの代表的な作曲家 (Rossini, Donizetti, Bellini) 及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
- ③ 日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

授業展開と内容

- 第1回 呼吸、発声練習
- 第2回 共鳴、身体の使い方の練習
- 第3回 イタリア語ディクショ (音読)
- 第4回 イタリア語 (歌唱)
- 第5回 正確な音程とリズム
- 第6回 イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の様式感
- 第7回 イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の演奏法
- 第8回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) の正しい発音と歌い方
- 第9回 歌詞の理解
- 第10回 歌詞の表現
- 第11回 時代・様式にあった音楽づくり
- 第12回 時代・様式にあった表現方法
- 第13回 前期試験曲の伴奏合わせ
- 第14回 前期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
- 第15回 前期試験に向けての総合練習
- 第16回 呼吸、発声技術の向上
- 第17回 共鳴、身体の使い方の理解と向上
- 第18回 イタリア語・日本語 ディクショとボジショ (音読)
- 第19回 イタリア語・日本語 ディクショとボジショ (歌唱)
- 第20回 正確な音程とリズムを作る能力の向上
- 第21回 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
- 第22回 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
- 第23回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) ・日本語の正しい発音と歌い方の向上
- 第24回 歌詞の理解力の向上と表現
- 第25回 歌詞の表現力の向上と歌唱
- 第26回 時代・様式にあった音楽づくりと表現
- 第27回 時代・様式にあった表現方法と歌唱
- 第28回 後期試験曲の伴奏合わせ
- 第29回 後期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)

**履修上の注意**

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

**教科書・参考書**

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集、日本歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

**声乐 I ②**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア・ベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進歩、能力に合わせて学んでいく。

実技試験は前期「Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲1曲(4分以内)」 後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- ② イタリア・ベルカントの代表的な作曲家 (Rossini, Donizetti, Bellini) 及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
- ③ 日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

授業展開と内容

- 第1回 呼吸、発声練習
- 第2回 共鳴、身体の使い方の練習
- 第3回 イタリア語ディクショ (音読)
- 第4回 イタリア語 (歌唱)
- 第5回 正確な音程とリズム
- 第6回 イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の様式感
- 第7回 イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の演奏法
- 第8回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) の正しい発音と歌い方
- 第9回 歌詞の理解
- 第10回 歌詞の表現
- 第11回 時代・様式にあった音楽づくり
- 第12回 時代・様式にあった表現方法
- 第13回 前期試験曲の伴奏合わせ
- 第14回 前期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
- 第15回 前期試験に向けての総合練習
- 第16回 呼吸、発声技術の向上
- 第17回 共鳴、身体の使い方の理解と向上
- 第18回 イタリア語・日本語 ディクショとボジショ (音読)
- 第19回 イタリア語・日本語 ディクショとボジショ (歌唱)
- 第20回 正確な音程とリズムを作る能力の向上
- 第21回 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
- 第22回 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
- 第23回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) ・日本語の正しい発音と歌い方の向上
- 第24回 歌詞の理解力の向上と表現
- 第25回 歌詞の表現力の向上と歌唱
- 第26回 時代・様式にあった音楽づくりと表現
- 第27回 時代・様式にあった表現方法と歌唱
- 第28回 後期試験曲の伴奏合わせ
- 第29回 後期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)

**履修上の注意**

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

**教科書・参考書**

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集、日本歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

**声乐 I ③**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合						

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。2年次までの歌曲に加え、学生個々の能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲など範囲を広げて学んでいく。実技試験課題は、前期・後期とも「自由曲1曲(イタリア語のもの)(5分以内) ※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を向上させることができる。
- ②各々の楽器(声)に合った歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を身につけることができる。
- ③レチタティーヴォの歌い方を覚え、身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクシオン (音読)
第4回	イタリア語ディクシオン (歌唱)
第5回	レチタティーヴォの歌い方 (レチタティーヴォ・セッコ)
第6回	レチタティーヴォの歌い方 (レチタティーヴォ・アッコンパニヤート)
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌い方
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌い方
第9回	歌詞・作品の理解
第10回	歌詞・作品の理解と表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の向上
第18回	イタリア語ディクシオンの向上 (音読)
第19回	イタリア語ディクシオンの向上 (歌唱)
第20回	レチタティーヴォの歌い方の向上 (レチタティーヴォ・セッコ)
第21回	レチタティーヴォの歌い方の向上 (レチタティーヴォ・アッコンパニヤート)
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌い方 (ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌い方 (ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第24回	歌詞・作品の理解力の向上
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第27回	時代・様式にあった表現方法の向上
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

**声乐 I ③**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合						

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。2年次までの歌曲に加え、学生個々の能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲など範囲を広げて学んでいく。実技試験課題は、前期・後期とも「自由曲1曲(イタリア語のもの)(5分以内) ※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を向上させることができる。
- ②各々の楽器(声)に合った歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を身につけることができる。
- ③レチタティーヴォの歌い方を覚え、身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクシオン (音読)
第4回	イタリア語ディクシオン (歌唱)
第5回	レチタティーヴォの歌い方 (レチタティーヴォ・セッコ)
第6回	レチタティーヴォの歌い方 (レチタティーヴォ・アッコムパニヤート)
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌い方
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌い方
第9回	歌詞・作品の理解
第10回	歌詞・作品の理解と表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の向上
第18回	イタリア語ディクシオンの向上 (音読)
第19回	イタリア語ディクシオンの向上 (歌唱)
第20回	レチタティーヴォの歌い方の向上 (レチタティーヴォ・セッコ)
第21回	レチタティーヴォの歌い方の向上 (レチタティーヴォ・アッコムパニヤート)
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌い方 (ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌い方 (ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第24回	歌詞・作品の理解力の向上
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第27回	時代・様式にあった表現方法の向上
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習



### 履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

**声楽 I ④**

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合						

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。学生個々の声種・能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲、日本歌曲など幅広いレパートリーを学んでいく。

実技試験課題は、前期「自由曲1曲(イタリア語のもの)(6分以内) ※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」後期「イタリア歌曲または日本歌曲と自由曲(イタリア語)各1曲(10分以内)」 試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を更に向上させることができる。
- ②各々の楽器(声)に合った歌曲(日本歌曲を含む)やオペラアリアのレパートリーを作り、様式感のある演奏法と表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声技術の向上
第2回	共鳴、身体の使い方の向上
第3回	イタリア語ディクシオン力の向上(音読)
第4回	イタリア語ディクシオン力の向上(歌唱)
第5回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・セッコ)
第6回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・アッコンパニヤート)
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上
第9回	歌詞・作品の理解力の向上
第10回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第11回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第12回	時代・様式にあった表現方法の向上
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の更なる鍛錬
第17回	共鳴、身体の使い方の更なる鍛錬
第18回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(音読)
第19回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(歌唱)
第20回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・セッコ)
第21回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・アッコンパニヤート)
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第24回	歌詞・作品の理解力の習得
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の習得
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの習得
第27回	時代・様式にあった表現方法の習得
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

**声楽Ⅰ④**

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。学生個々の声種・能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲、日本歌曲など幅広いレパートリーを学んでいく。

実技試験課題は、前期「自由曲1曲(イタリア語のもの)(6分以内) ※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」後期「イタリア歌曲または日本歌曲と自由曲(イタリア語)各1曲(10分以内)」 試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を更に向上させることができる。
- ②各々の楽器(声)に合った歌曲(日本歌曲を含む)やオペラアリアのレパートリーを作り、様式感のある演奏法と表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声技術の向上
第2回	共鳴、身体の使い方の向上
第3回	イタリア語ディクシオン力の向上(音読)
第4回	イタリア語ディクシオン力の向上(歌唱)
第5回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・セッコ)
第6回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・アコンパニヤート)
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上
第9回	歌詞・作品の理解力の向上
第10回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第11回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第12回	時代・様式にあった表現方法の向上
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の更なる鍛錬
第17回	共鳴、身体の使い方の更なる鍛錬
第18回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(音読)
第19回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(歌唱)
第20回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・セッコ)
第21回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・アコンパニヤート)
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第24回	歌詞・作品の理解力の習得
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の習得
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの習得
第27回	時代・様式にあった表現方法の習得
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

### 履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

---

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

---

### 教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：84 教員名：的場 辰朗

### 1) 評価結果に対する所見

コロナ禍の中、学生一人ひとりがそれぞれの目標をもって年間を通してモチベーションを維持する事は大変な努力が必要だったと思う。

### 2) 要望への対応・改善方策

学修成果を得るための工夫や学生とのコミュニケーションに注意しながら、レッスン時間の維持に努め、学生のレッスンに対する要望に応えられる様に努力してきた。

### 3) 今後の課題

今後さらに学生一人ひとりの学習意欲を高め、それぞれの学生生活がより一層充実したものになる様に、学生に寄り添って熱意をもって誠実に全力でレッスンに臨む様に努力していきたい。

以 上